



人が人を育てる、北海道教育大学。

北海道教育大学環境報告書

Hokkaido University of Education Environmental Report 2012

2012

Contents

学長メッセージ	1
大学概要	2
特集	
2012年度 夏及び冬の節電活動	4
環境に配慮した施設整備	6
環境方針と環境保全推進実施体制	8
環境保全計画	9
環境保全の取り組み	10
環境汚染物質の管理と排出等について	14
環境教育活動の取り組み	16
学生の環境保全活動の取り組み	24
社会的取り組み	26

学長メッセージ

平成23年3月11日に発生しました、「東北地方太平洋沖地震」から2年半余り経ち、被災地も徐々に復興に向かっておりますが、今なお、避難生活を送られている方々に対し、心より御見舞い申し上げます。

北海道教育大学としても、震災後、学生ボランティアによる現地の子どもたちへの学習支援をはじめ、被災地出身の学生への経済的支援を行っております。

平成24年度に実施した元気応援プログラム「ふくしまキッズ夏季林間学校」への協力機関として、学生ボランティア83名（7月23日(月)～8月23日(木)）、「ふくしまキッズ冬のプログラム」では学生ボランティア26名（12月23日(日)～30日(日)）が参加協力するなど、本学として可能な限りの支援を行っているところです。

「環境報告書」は平成17年に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」に基づき2005年度（平成17年度）から、毎年公表してきました。

平成21年10月には、環境保全推進に係る体制の改革を実施し、道内5キャンパスの各副学長の下に教職員、学生が一体となった「キャンパス環境保全推進会議」を設置し、本学が掲げる環境保全推進計画を確実に実施するために、大学全体で取り組む体制としていきます。

平成25年度については、7月～9月までの期間2010年度比10%、12月～3月までの期間2010年度比8%、その他の期間2010年度比5%の節電目標を設定しました。



北海道教育大学長
本間 謙二

その取り組みとして、学内ホームページにおいて、各地区の電力使用量を公開し使用量を確認できるようにしたり、学生の作成による節電啓発ポスターの掲示や、不要な電気の消灯、電灯の間引きなど教職員が一体となって節電に取り組んでおります。

各キャンパスには、環境保全事業についての必要経費（環境保全推進経費）の措置をするとともに、学生の自主的かつ創造的な学生参加型のプロジェクトを公募し、平成24年度は「hue学生プロジェクト 環境部門」として4件、平成25年度は3件を採択し、環境事業に積極的に取り組んでいます。

2013（平成25年）9月

【報告の対象範囲】

対象範囲：北海道教育大学の全ての組織を報告対象としています。

期間：2012年4月1日～2013年3月31日※
※一部に2012年4月1日以前、または2013年4月以降の情報も含めています。

北海道教育大学の教育理念

1 先進の人間教育

教育の活動は、人が育ち成長することへの飽くことなき関心と情熱から始まる。北海道教育大学の教育は、現代の人間と子どもについての先進的で深い知見と体験を根底に置き、人を育てることの喜びと尊さの自覚を不断に醸成する。

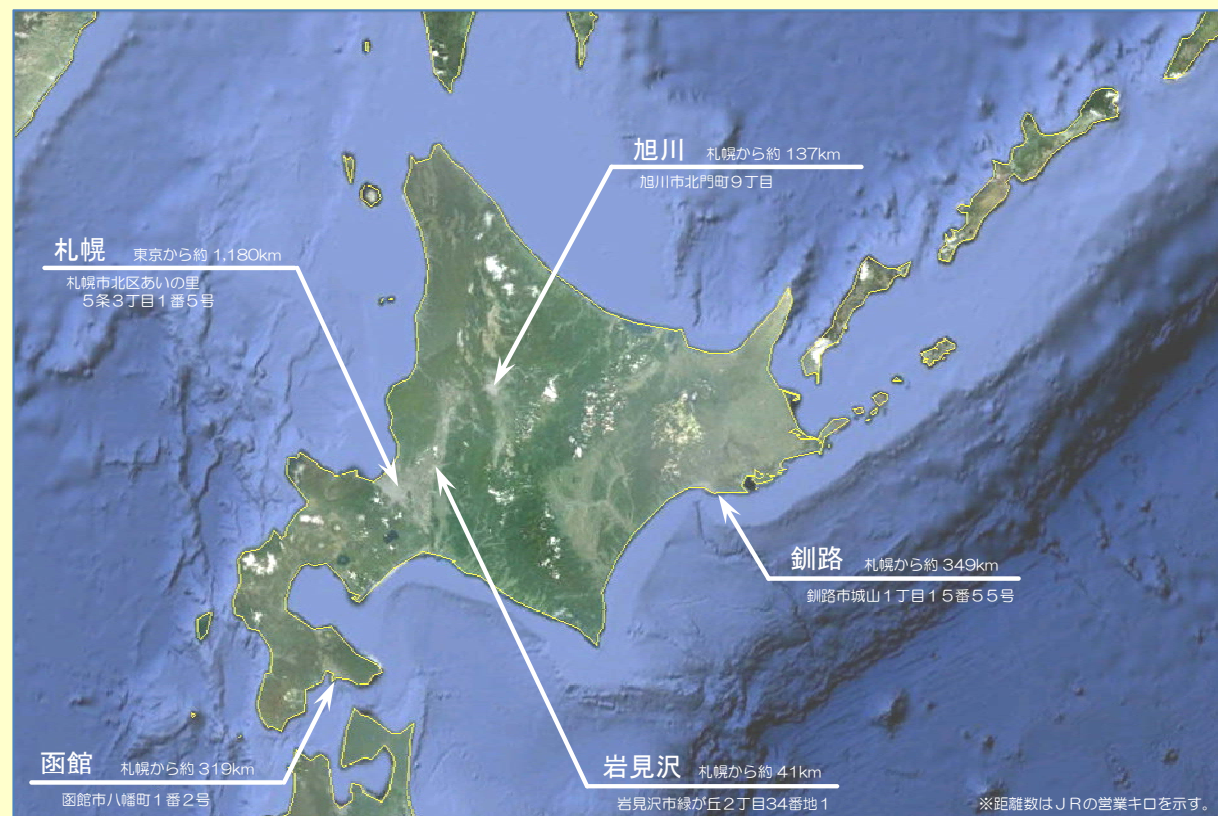
2 行動する教養

21世紀の社会と教育は、文理融合の複合的な教養、他者と積極的に関わり共存する柔軟な人間性を求めている。そのためには、芸術やスポーツを含めた多様な実践と体験に基づく、豊かで、社会に広がりを持つ人間性の育成が不可欠である。北海道教育大学の教育は、創造し行動する教養を旗印として現代の教養教育を展開する。

3 高い志の涵養

教育には、人のために生きる高い志が不可欠である。現代の教師には、子どもたちが抱える困難をわがこととして受け止める感受性が求められる。21世紀の地域と国際社会の諸課題への挑戦にも、同様の志が求められる。北海道教育大学の教育は、その全体を通して高い志の涵養をめざす。

本学位置図



札幌
札幌校（教育学部、大学院教育学研究科）、監査室、事務局、附属図書館、国際交流・協力センター、学校・地域教育研究支援センター、大学教育開発センター、キャリアセンター、保健管理センター、附属札幌小学校、附属札幌中学校、札幌駅前サテライト、学生寄宿舍（紫藻寮、北香寮）

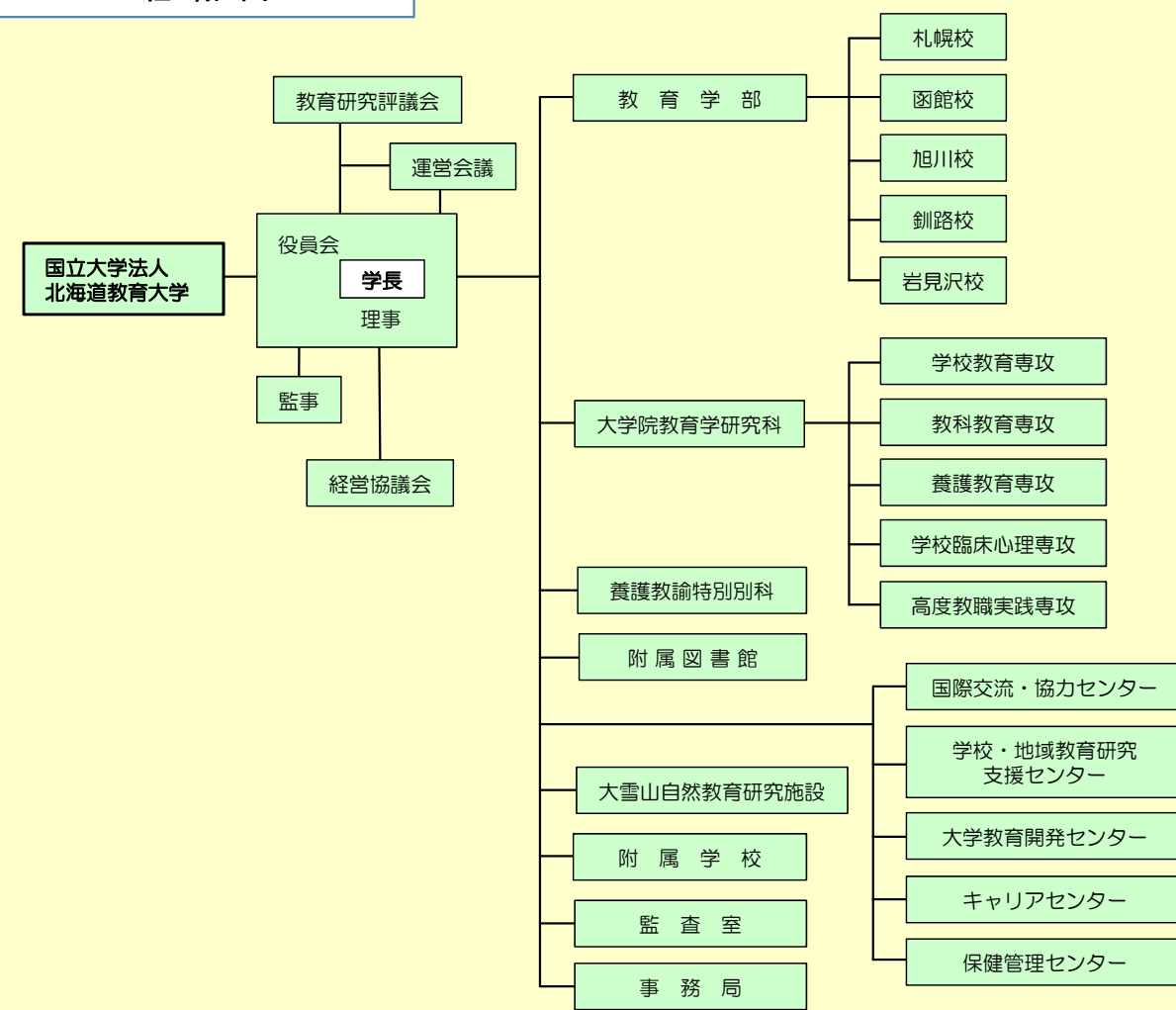
函館
函館校（教育学部、大学院教育学研究科、養護教諭特別別科）、附属函館小学校、附属函館中学校、附属特別支援学校、附属函館幼稚園、学生寄宿舍（桐花寮、翠蔭寮）

旭川
旭川校（教育学部、大学院教育学研究科）、附属旭川小学校、附属旭川中学校、附属旭川幼稚園、大雪山自然教育研究施設、学生寄宿舍（築ヶ丘寮、春光寮）

釧路
釧路校（教育学部、大学院教育学研究科）、附属釧路小学校、附属釧路中学校、学生寄宿舍（鶴ヶ岱寮）

岩見沢
岩見沢校（教育学部、大学院教育学研究科）、学生寄宿舍（希望寮、清明寮）

組織図



職員・学生数

2013年5月1日現在

区 分		人 数 (人)	
学 生	教育学部	5,313	(6)
	大学院教育学研究科（修士課程）	249	(19)
	大学院教育学研究科（専門職学位課程）	97	
	養護教諭特別別科	18	
	計	5,677	(25)
児 童 ・ 生 徒 ・ 園 児	附属小学校	1,732	
	附属中学校	1,441	
	附属特別支援学校	52	
	附属幼稚園	101	
	計	3,326	
教 職 員	大学	399	
	附属学校	185	
	職員数	232	
	計	816	
合 計		9,819	(25)

※（ ）内の数字は外国人留学生を内数で示す。

2012年度 夏及び冬の節電活動について

北海道教育大学 環境保全推進本部

2012年度の電力需給対策などを議論する政府のエネルギー・環境対策会議において、北海道電力管内での節電目標が、2010年度との比較で7%以上と設定され、夏季については計画停電の準備も求められる等の状況となりました。

このことを受け本学では、環境保全推進本部にて検討した結果、**夏季10%以上・冬季8%以上**の節電目標を設定し、教育研究及び業務等に支障がない範囲で、節電対策を実施することとなりました。

はじめに、各キャンパスの2010年度の各月最大需要電力を調査し、節電目標に見合う各月削減量を算出しました。次に、削減量に応じた照明器具の消灯台数やパソコンの省エネ設定、暖房便座等の電気機器の使用制限など、削減量を積み上げ「節電ロードマップ」を作成しました。

本学で消費電力の約45%をしめる照明器具については、照度計にて各室の明るさを計測し、必要な明るさを確保したうえで、間引き（消灯）する器具を設定しました。パソコンについては、ディスプレイの輝度設定による消費電力の状況を計測し、必要最低限の明るさとなるよう設定しました。また、「節電ロードマップ」が確実に実施されるよう週に1度、節電点検を実施しました。

節電ポスターは、岩見沢校芸術課程美術コースメディアデザイン専攻学生（小北研究室）の協力により作成していただき、節電活動について学生・教職員に周知するため、学内の各所に掲示しました。

また、各キャンパス受電設備にデマンド監視装置を設置し、電力の「見える化」を図り、情報公開の一端として、節電状況について大学の取組を発信し、また、使用状況が把握できるようホームページに各校の電力使用状況を掲載しました。

その結果、大学全体で夏季は **11.0%***、冬季は **8.8%***の節電となり、目標を達成することが出来ました。

※各月平均値

■ 節電活動内容

節電対象 全学(附属学校、学生寄宿舎等含む全ての施設)

節電期間 夏季 平成24年 7月1日(日) ~ 平成24年 9月30日(日)
冬季 平成24年12月10日(月) ~ 平成25年 3月8日(金)

節電目標 平成22年度同月の最大需要電力(kw)を基準
夏季:**10%以上**、冬季:**8%以上**、その他の期間:**5%以上**

節電対策

- (1) **意識改革**
節電ポスターの掲示
電力使用状況の公表
- (2) **節電目標に対応した節電ロードマップの作成及び実行**
- (3) **節電チェックリストを利用した節電点検の実施**
- (4) **空調・暖房設備** 空調機の温度設定を見直す
クールビズ・ウォームビズを実施し、室温設定を見直す
- (5) **照明設備** 必要照度を確保して照明器具の間引き
可能な限りLED電球への交換
使用していないエリアの消灯の徹底
昼休みの室内消灯の徹底
- (6) **空調、照明設備以外の設備** 暖房便座を節電モードに設定
洗面所ハンドドライヤーの使用中止
パソコン(ディスプレイ含む)の省エネモードへの設定及び未使用時の電源オフ
エレベータの使用制限
上1階、下2階の移動はエレベータの使用を原則禁止し、出来るだけ階段を利用



作成した節電ポスター

本学ホームページに各キャンパス電力使用量を掲載

主要5キャンパスの電力使用量の合計を掲載

芸術課程美術コース3年倉本侑香さんがワットセンス・アワード2012で環境大臣賞を受賞しました

平成25年3月29日(金)、ワットセンス・プロジェクトの企画による「ワットセンス・アワード2012」が日本財団ビルで開催され、クリエイティブポスター部門で本学の倉本侑香さん(芸術課程美術コース3年)が最高賞となる「環境大臣賞」を受賞しました。



ワットセンスとは、「エネルギーの使い方を考えるセンス」のことで、社会全体の「エネルギーの使い方」に対する豊かなコミュニケーションを創造することを目的に、環境省職員、大学教授、ジャーナリスト等の有識者を中心にプロジェクトが立ち上がり、今回の「ワットセンス・アワード2012」が行われたものです。

本アワードは、アクション部門、クリエイティブポスター部門、企業・団体表彰部門の3部門があり、倉本さんはそのうちのクリエイティブポスター部門に応募したものです。たくさんの応募があるため、毎月優秀な10作品を選考し、そして、選考された99の優秀な作品から再度審査し、倉本さんの作品が見事に最高賞に選ばれました。

受賞した倉本さんは、「このたびはこのような名誉ある賞をいただくことができ、とても光栄。節電を我慢するのではなく、楽しみながら行えるように意識してデザインを考えたが、この作品を見てより多くの人が節電に取り組んでくれると嬉しい。」と語っていました。



函館校マルチメディア国際語学センター改修

平成26年度より計画している函館校の学科化（国際地域学科）を踏まえ、既存の老朽化した技術実習棟を新たにマルチメディア国際語学センター（R1 569㎡）として改修しました。

環境配慮した改修内容は下記のとおりです。

- 断熱 ---- 屋上断熱防水、外壁現場発泡ウレタン吹き付け（内断熱）
- 照明器具 ---- 全室に消費電力が少ないLED照明を採用。（便所、廊下は人感センサーによる点灯方式）
- 変圧器 ---- エネルギー損失が少ないトップランナー変圧器に更新。
- 給水管 ---- 耐久性に優れ、リサイクル可能なステンレス管を採用。
- 換気設備 ---- 便所に人感センサー付き換気扇を採用。
- 衛生器具 ---- 節水型便器やセンサー付き水栓等を採用。
- 空調設備 ---- 高効率パッケージ型空調和機を採用。



札幌校 渡り廊下改修

1986年に建設された札幌校講義棟渡り廊下を、機能改善・環境対策を行い、断熱性能の向上を目的として改修整備を実施しました。

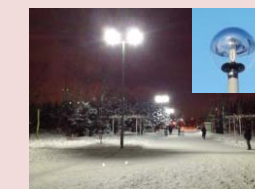
- 外部建具に断熱性能が高い、Low-e複層ガラスに更新しました。また、床、壁、天井についてもウレタン吹き付け（内断熱）を実施し、渡り廊下全体の断熱性能の改善を図りました。照明器具に人感センサー付きLED器具を採用しました。



外灯改修

札幌あいの里団地、函館八幡町1、函館美原団地及び旭川春光町団地に設置している外灯の電球を、平成24年度は51基、LED照明に改修しました。

- 外灯の電球（水銀灯）をLED照明に改修し、省エネルギーに配慮しました。（1灯あたり400Wを72Wに更新し、消費電力を約80%削減しました。）



附属特別支援学校校舎改修

1977年に建設された附属特別支援学校（R2 2,450㎡）を、機能改善・耐震補強・環境対策を行い、安心・安全な教育環境の整備、現在のニーズに合致した施設への転換等を図ることを目的として改修整備を実施しました。

環境配慮した改修内容は下記のとおりです。

- 断熱 ---- 屋根・外壁に現場発泡ウレタン吹き付け（内断熱）
- 環境対策 ---- 既存アスベスト含有吹き付け材除去。
- 照明器具 ---- 全室に消費電力が少ないLED照明を採用。（便所、廊下は人感センサーによる点灯方式）
- 変圧器 ---- エネルギー損失が少ないトップランナー変圧器に更新。
- 給水管 ---- 耐久性に優れ、リサイクル可能なステンレス管を採用。
- 暖房設備 ---- 熱源として、CO2排出量の少ない天然ガスを採用。
- 換気設備 ---- 便所に人感センサー付き換気扇を採用。
- 衛生器具 ---- 節水型便器やセンサー付き水栓等を採用。



あいの里団地基幹整備事業

重要なライフラインのひとつである暖房用蒸気ボイラー及び屋外ガス管（26年経過）の更新を行い、安心安全なキャンパスの実現及び、暖房用燃料の転換により温室効果ガス排出量を削減することを目的に整備するものです。

- ライフライン（屋外ガス管）の更新及び暖房用ボイラーの更新にあたり、高効率のボイラーとし、併せてCO2排出量を削減するため、燃料転換（A重油を天然ガスに転換）をおこないます。（温室効果ガス 335 t・CO2/年の削減予定）



附属函館中学校体育館改修

1969年に建設された附属函館中学校体育館（S1 620㎡）を、機能改善・耐震補強・環境対策を行い、安心・安全な運動空間の整備、災害時の避難施設として活用することを目的として、改修整備を実施しました。

環境配慮した改修内容は下記のとおりです。

- 断熱 ---- 屋根・外壁に外断熱工法を採用。
- 照明器具 ---- 消費電力が少ないLED照明（調光機能付）を採用。
- 給水管 ---- 耐久性に優れ、リサイクル可能なステンレス管を採用。
- 換気設備 ---- 便所に人感センサー付き換気扇を採用。
- 衛生器具 ---- 節水型便器（災害対応）やセンサー付き水栓等を採用。



図書館・学生寄宿舍 照明設備改修

函館校図書館閲覧室（895㎡）、旭川校女子学生寄宿舍（36室）及び釧路校学生寄宿舍（43室）の照明器具をLED照明器具に改修しました。

- 室内の照明器具（蛍光灯）をLED照明に改修し、省エネルギーに配慮しました。（1灯あたり36Wを19Wに更新し、消費電力を約47%削減しました。）



岩見沢校体育研究施設新営事業

本事業は、平成18年から開始した課程再編や現在推し進めている岩見沢校の学科化計画を踏まえ、体育施設の狭隘解消と施設の高度化を目的に整備するものです。

規模 RS2 4,411㎡
設計期間 平成23年12月～平成24年12月
工事期間 平成25年2月～平成26年1月

■ 環境配慮した整備内容は下記のとおりです。

- 断熱 ---- 屋上断熱防水、外壁現場発泡ウレタン吹き付け（内断熱）
- 照明器具 ---- 全室に消費電力が少ないLED照明を採用。（便所、廊下は人感センサーによる点灯方式）
- 変圧器 ---- エネルギー損失が少ないトップランナー変圧器を採用。
- 太陽光発電 ---- 災害時の電源確保を目的に太陽光発電パネルを設置。
- 給水管 ---- 耐久性に優れ、リサイクル可能なステンレス管を採用。
- 暖房設備 ---- 熱源として、CO2排出量の少ない天然ガスを採用。
- 換気設備 ---- 便所に人感センサー付き換気扇を採用。
- 衛生器具 ---- 節水型便器やセンサー付き水栓等を採用。



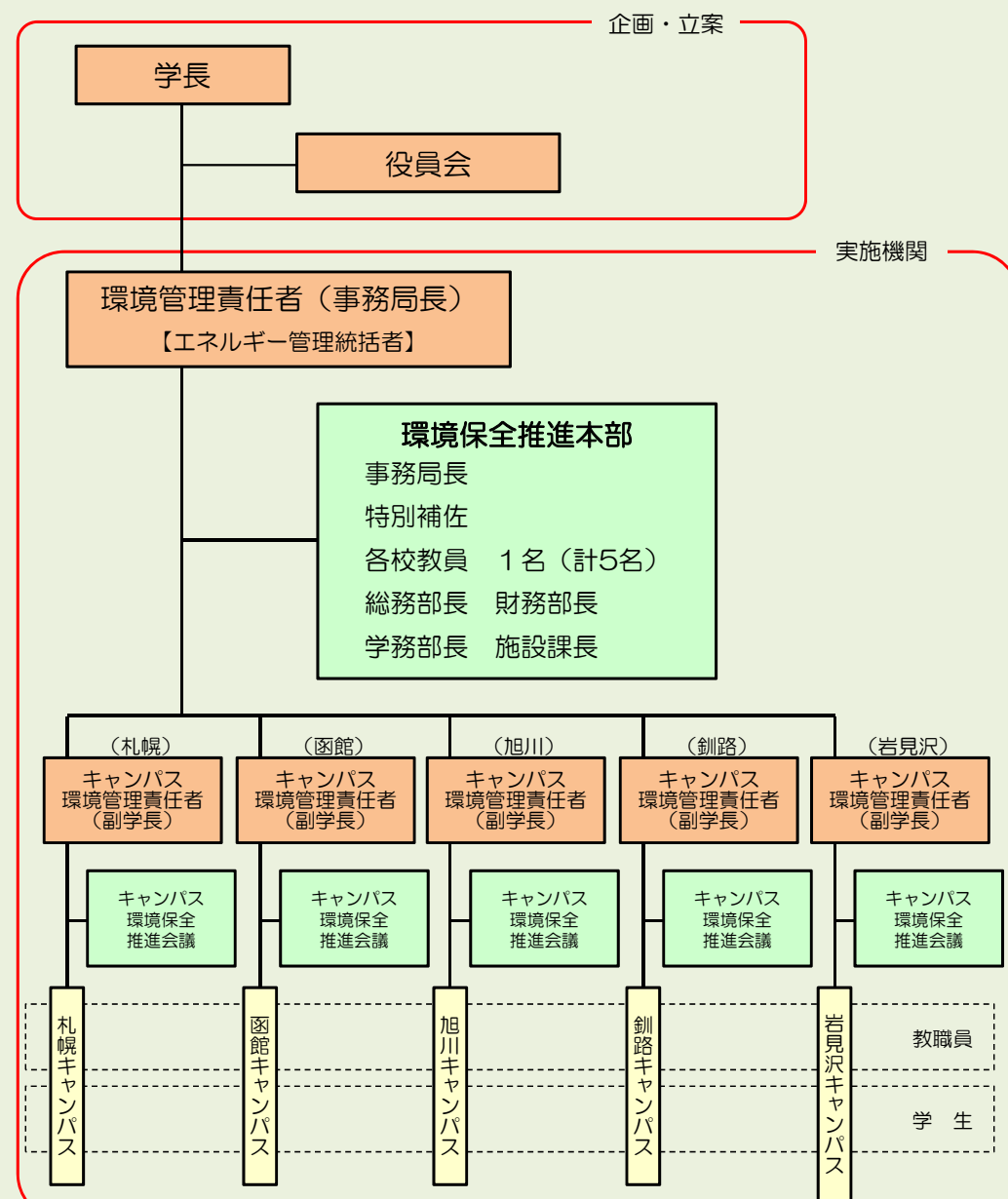
本学の使命は、北海道の歴史と風土に根ざしつつ、教師をはじめ地域のための優れた人材を養成し、さらに、教育、研究及び社会貢献活動を通じて、社会の発展と人類福祉の向上に貢献することです。この使命に相応しい大学環境を構築し、環境に関わる世代間の平等を尊重する社会人の育成に努めます。

基本方針

本学の基本理念に基づき、各キャンパス内の全ての教職員及び学生等の協力のもとに、以下の活動を積極的に推進します。

- i 本学の特色である文系と理系の知恵を集積し、また附属学校や近隣の学校と連携し、北海道教育大学としての特長を活かした環境教育と研究の実践を進めます。研究成果の普及により、地域環境及び地球環境の改善に努めます。
- ii 教職員及び学生等全体で快適な学内環境の構築に努めます。学生の主体的な参加によって実施するために、学生による自主的な環境活動を推奨し、多様な環境プログラムが実施されるキャンパスを目指します。
このことにより、環境改善に資する能力を持った人材育成に努めます。
- iii 省資源、省エネルギー、廃棄物の減量化及び化学物質の適正管理などにより、汚染の予防と継続的な環境改善を行います。これらにより環境負荷の少ない快適なキャンパスを実現します。
- iv 本学に適用される環境関連の法令及び本学が決めた事項を守ります。

環境保全推進本部体制図



地球温暖化対策に関する実施計画について

本学では、温室効果ガスの総排出量を、基準年を2007（平成19）年度とし、2012（平成24）年度までに5%削減することを目標とした「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」を策定し、目標を達成するために努力しています。

達成目標及び自己評価

項目	対象	目標	実施したこと	2012年度自己評価
エネルギーの有効活用と節約の推進 【適用法令】 エネルギーの使用の合理化に関する法律	電気使用量 ガス使用量 上下水道使用量 省エネへの啓発	2007（平成19）年度を基準として2012（平成24）年度までに温室効果ガスの総排出量を5%削減する。	政府の要請に対応した節電活動の実施。ポスター掲示等による省エネの啓発、外断熱工事の実施や高効率トランスへの更新、LED照明器具へ更新、トイレへの擬音装置の設置、一部エネルギーの転換等を実施、電力の見える化の実施、エネルギー使用量の公表（内部のみ）	◎
資源の有効利用とリサイクルの推進 【適用法令】 資源の有効な利用の促進に関する法律	新聞紙	リサイクルを実施する。	回収BOXを設置し、リサイクルを実施した。（継続）	○
	トナー	リサイクルトナーを利用する。	リサイクルトナーを利用。（継続）	○
グリーン購入、調達状況 【適用法令】 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律	廃棄物の分別・排出量 可燃物・紙類・ビン・カン・ペットボトル	分別収集、リサイクルを実施する。	視覚を活用したカートを活用し、廃棄物の種別毎に分別収集し、リサイクルを実施した。（継続）	◎
	グリーン購入対象物品等	グリーン購入100%を達成する。	グリーン購入100%を達成した。	◎
環境汚染の防止 【適用法令】 下水道法 ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB 特別措置法）	有害物質の適正管理と廃棄の現状	法律に基づいた適正な管理と廃棄を行う。	法律に基づいた適正な管理と廃棄を行った。	◎
	PCB	適正に管理する。	PCB 適正に管理する。適正に管理を行った。（コンデンサーは2012年度処理完了。）	◎
環境教育活動の取り組み	排水	排水基準値を遵守する。	排水基準値を遵守した。	◎
	環境教育関連科目の継続実施		全学共通科目「環境マネジメント」他、環境教育関連科目を開設の後、継続して実施した。	◎
	附属学校・園における環境教育	一層の環境教育活動への取り組みを推進する。	附属学校における環境教育活動への取り組みを推進した。	◎
学内美化	地域貢献（社会貢献）		環境教育活動への取り組みを行った。	◎
	キャンバスクリーン	学内清掃を実施する。	年2回、学生を交えて学内清掃を行った。	◎
	放置自転車	放置自転車を0にする。	放置自転車を処分した。	○
	禁煙 【適用法令】 健康増進法	禁煙の徹底をする。	快適な教育・職場環境作りの一環として、及び教員養成を図る大学としての在り方等を考慮して、平成20年4月より、本学敷地内全面禁煙を実施した。（継続）	◎
学生の自主的な活動	緑地	緑化を推進する。	計画的に緑化を行った。（植樹、花壇の整備等）	◎
			学生の自主的な活動による、環境保全活動が実施された。（hue学生プロジェクト環境部門）	◎

※ 自己評価の指標

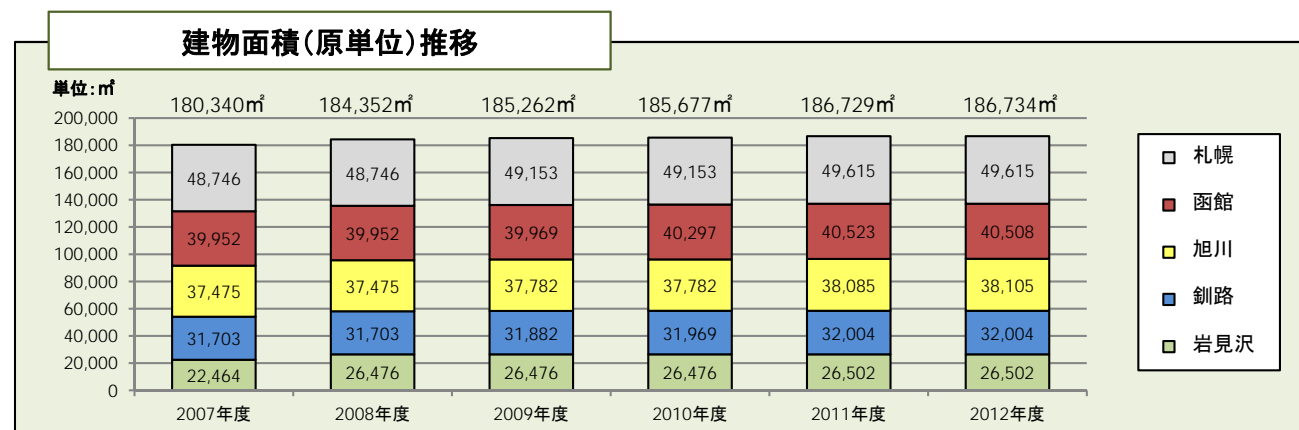
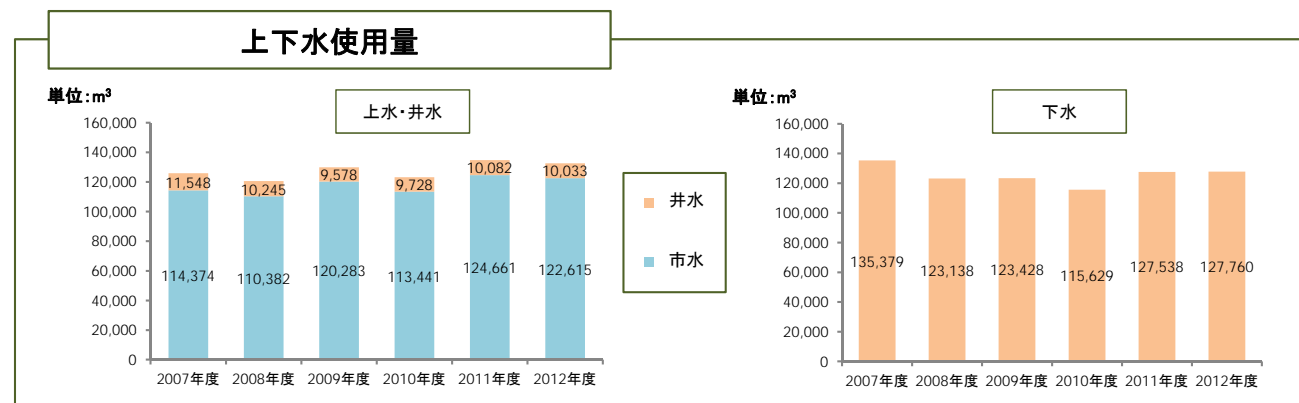
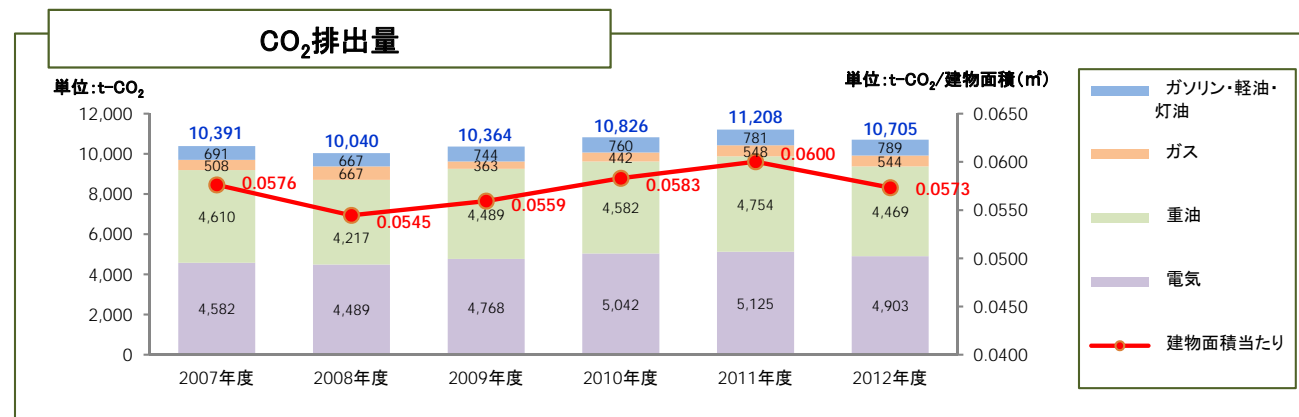
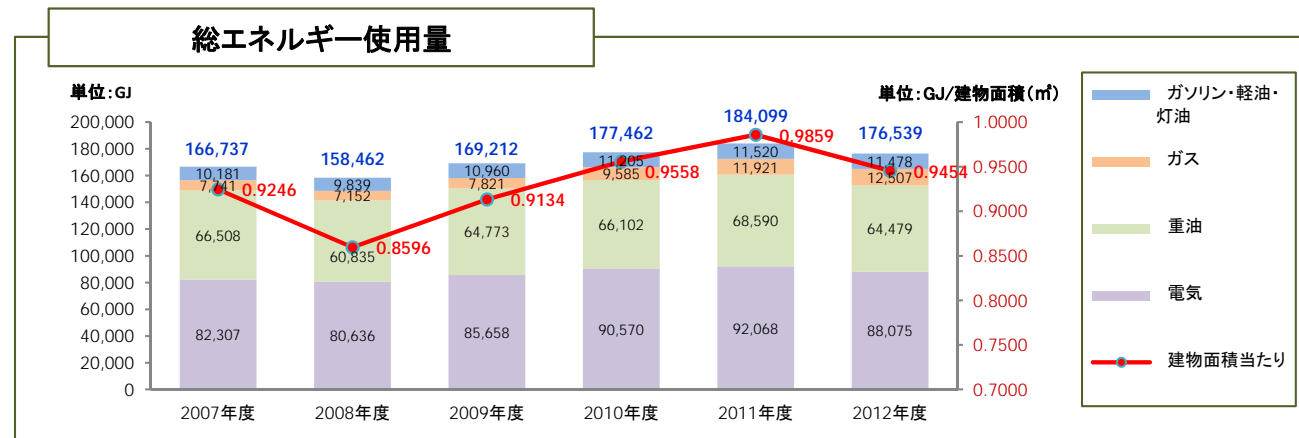
- ◎・・・目標を達成できた計画
- ・・・おおむね目標を達成した計画
- △・・・目標の半分を達成している計画
- ×・・・目標を達成できなかった計画



「国立大学法人北海道教育大学における地球温暖化対策に関する実施計画」は平成24年度にて最終年度となり、平成25年7月に自己評価を実施しました。結果は、数値目標では達成できずでしたがその他の活動についての評価は、「概ね目標を達成した」となりました。この自己評価の詳細は、本学ホームページにて公表しております。また、次期実施計画はこの自己評価を踏まえ、平成25年度に検討の上策定する予定です。（URL：<http://www.hokkyodai.ac.jp/admin/admin-chikyudanka.html>）

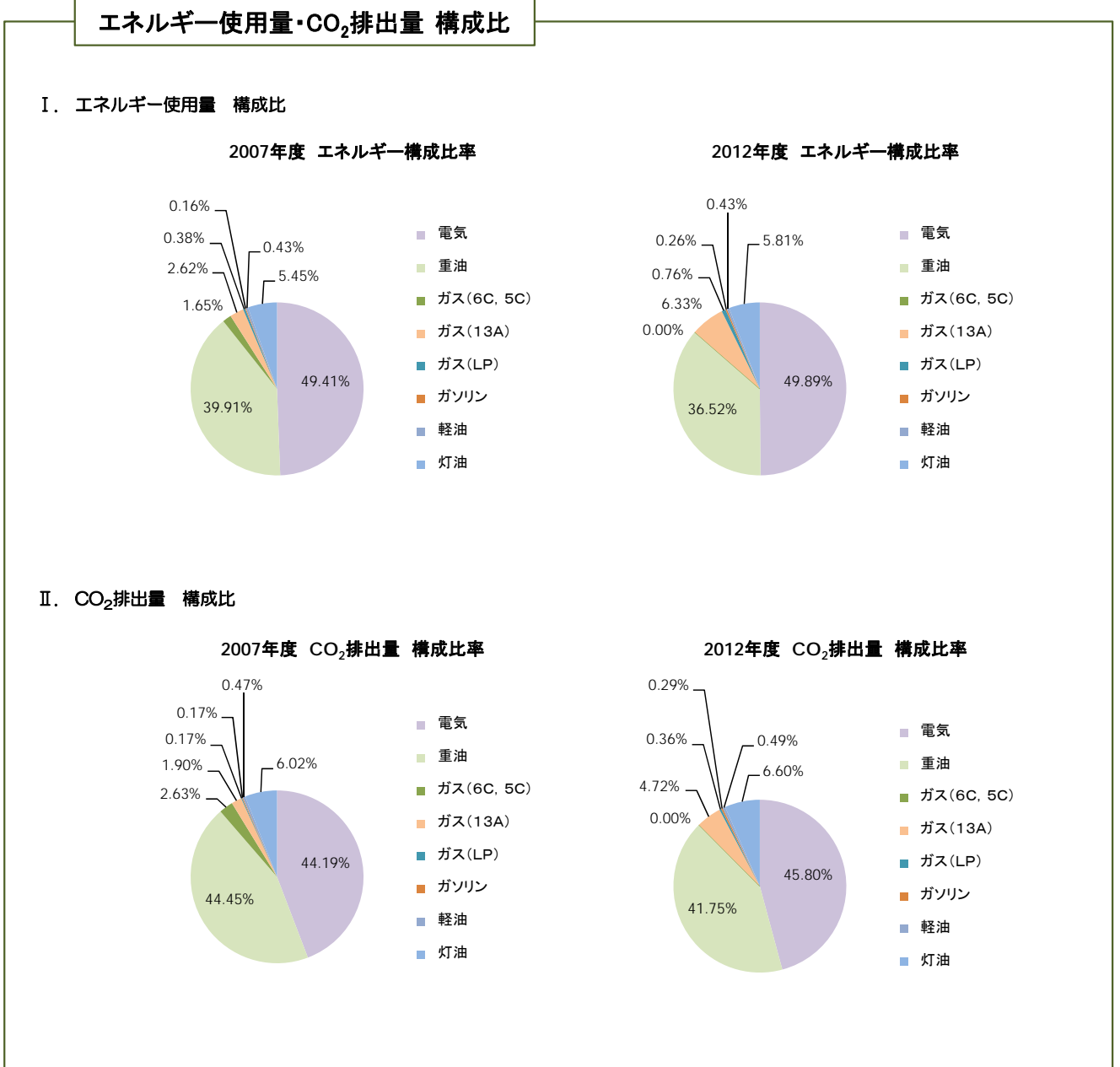
エネルギーの有効活用と節約の推進

2012年度は、建物改修や基幹設備改修等で照明器具のLED化、トッランナー変圧器への更新、老朽した給水管の取り替えを行い、エネルギーの有効活用を図りました。また、各校に最大需要電力監視装置を設置し、Web上にて確認できるように改修し、省エネの啓発を行いました。また、節電活動を実施した結果、前年度に比べ、大幅にエネルギー使用量を削減しました。



エネルギー転換の推進

CO₂総排出量削減のため、暖房のための熱源である重油を、天然ガス(13A)へ燃料転換を実施しています。そのため、2007年度に比べ、天然ガス(13A)の使用量が増加し、重油使用量が減少しています。2013年度には、札幌あいの里キャンパスのボイラーを更新し、高効率化とともに天然ガスへの転換を実施する予定です。
※都市ガス(6C, 5C)は、2008年度にガス供給事業者により天然ガス(13A)へ、ガス種を変更しています。

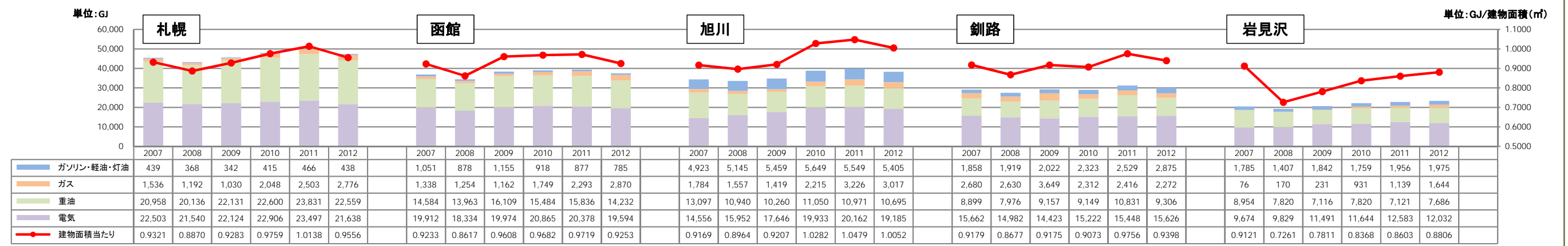


換算係数等

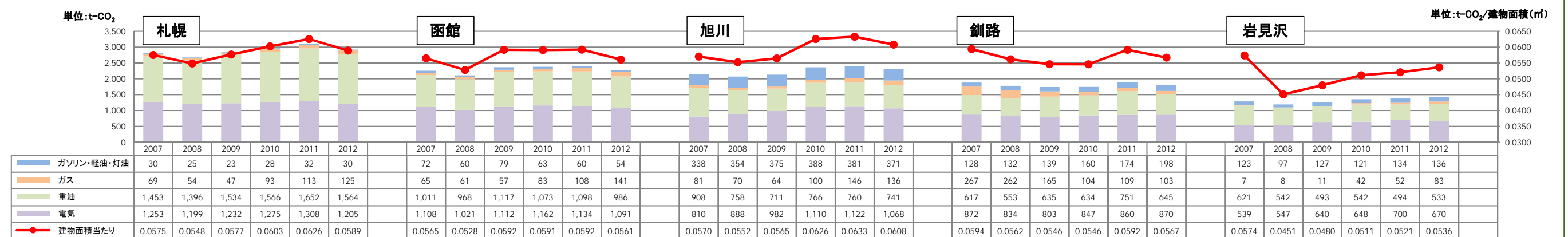
エネルギー使用量換算係数			CO ₂ 排出量換算係数		
種類	換算係数	単位	種類	換算係数	単位
電気	9.97	GJ/Mkwh	電気	0.555	t-CO ₂ /Mkwh
重油	39.10	GJ/Kl	重油	2.710	t-CO ₂ /Kl
都市ガス(6C, 5C)	20.90	GJ/Mm ³	都市ガス	2.080	t-CO ₂ /Mm ³
都市ガス(13A)	46.05	GJ/Mm ³	LPガス	3.000	t-CO ₂ /t
LPガス	50.20	GJ/t	ガソリン	2.322	t-CO ₂ /Mkl
ガソリン	34.60	GJ/Mkl	軽油	2.619	t-CO ₂ /kl
軽油	38.20	GJ/kl	灯油	2.489	t-CO ₂ /kl
灯油	36.70	GJ/kl			

換算係数は、環境報告書ガイドラインを参照(都市ガスについては、ガス会社のデータを参照。)

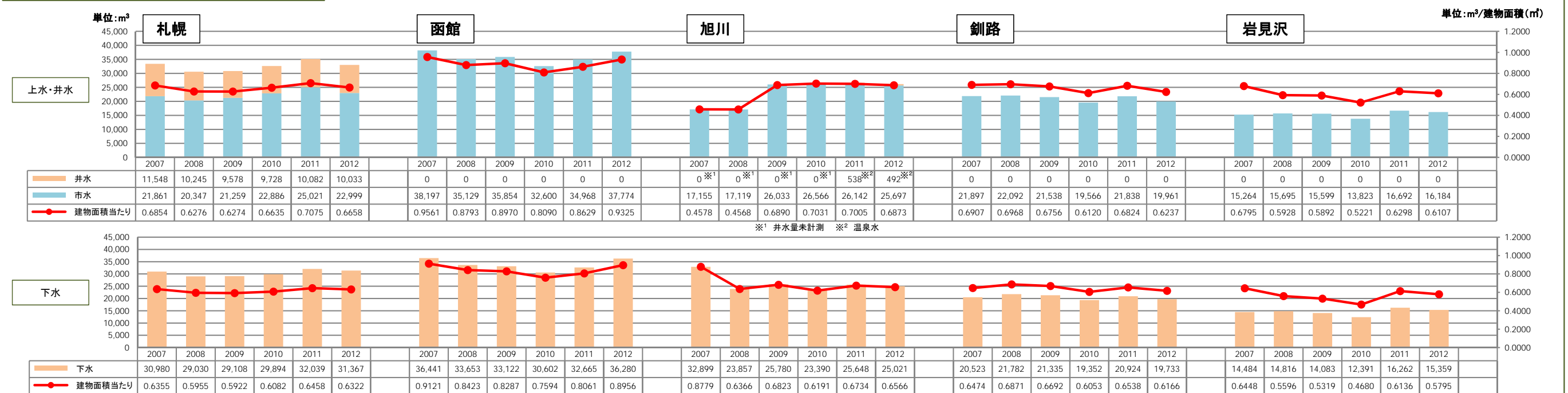
総エネルギー使用量



CO₂排出量



上下水使用量



環境汚染物質の管理と排出等について

1 下水の検査と管理の状況

区分	検査と管理の現状				
	対象	検査と内容	検査回数	検査結果	
札幌校	下水道	大学系統最終放出口	水質検査	月1回	適合
函館校	下水道	2号館系	水質検査	年1回	適合
		8号館系	水質検査	年1回	適合
		厚生会館系	水質検査	年1回	適合
旭川校	下水道	最終放出口	水質検査	年2回	適合

2 有害化学物質の管理と廃棄の状況

各種化学薬品類

校名	有害物質名称	容器の形状	分類	保管状況	処理等	管理記録	特別管理産業廃棄物管理責任者の選任
札幌校	廃試薬・廃液等	専用容器	水銀・シアン・その他	屋内分別	2012年11月業者処理	実験廃液処理依頼伝票	財務部経理課契約グループ係長講習修了者
函館校	廃試薬・廃液等	専用容器	無機系・有機系・廃油・写真廃液	屋内分別	2013年3月業者処理	実験廃液処理依頼伝票	副事務長講習修了者
旭川校	廃試薬・廃液等	専用容器	クロム・水銀・シアン・その他	屋内分別	2012年9月業者処理	実験廃液処理依頼伝票	教授講習修了者
釧路校	廃試薬・廃液等	専用容器	クロム・アルカリ・シアン・その他	屋内分別	2013年2月業者処理	実験廃液処理依頼伝票	財務グループ係長講習修了者
岩見沢校	廃試薬・廃液等	専用容器	無機系・有機系	屋内分別	2012年度業者処理無	実験廃液処理依頼伝票	各研究室使用責任者

ポリ塩化ビフェニル廃棄物（PCB）

校名	有害物質名称	容器の形状	分類	保管状況	処理等	管理記録	特別管理産業廃棄物管理責任者の選任
札幌校	PCB使用蛍光灯安定器	プラスチック容器	囲い有り 掲示有り	屋内分別	未定	PCB管理台帳	財務部施設課係長講習修了者
函館校	PCB使用蛍光灯安定器	プラスチック容器	囲い有り 掲示有り	屋内分別	未定	PCB使用電気管理台帳	副事務長講習修了者
旭川校	PCB使用蛍光灯安定器	プラスチック容器	囲い有り 掲示有り	屋内分別	未定	引渡保管物一覧表	教授講習修了者
	PCB使用(微量)コンデンサー	—	囲い有り 掲示有り	屋内分別	未定		
釧路校	PCB使用蛍光灯安定器	ドラム缶	囲い有り 掲示有り	屋内分別	2013年度以降処理予定	PCB使用電気管理台帳	財務グループ係長講習修了者
	PCB使用コンデンサー	プラスチック容器	囲い有り 掲示有り	屋内分別	2012年度処理済		
岩見沢校	PCB使用蛍光灯安定器	プラスチック容器	囲い有り 掲示有り	屋内分別	未定	保管管理状況自主点検報告	参事講習修了者

※ 各校ポリ塩化ビフェニルは廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法の規定に基づき届け出を行っています。現在使用中である一部の電気室のトランスは成分未分析のため低濃度PCBとしての取り扱いをしています。

3 廃棄物の処分量

固形廃棄物分別区分	札幌校		函館校		旭川校		釧路校		岩見沢校	
	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位	廃棄量	単位
可燃ゴミ	84	m ³	680	m ³	380	m ³	30,412	kg	38	m ³
不燃ゴミ	—		48	m ³	288	m ³	—		120	m ³
粗大ゴミ	16	m ³	—		—		—		38	m ³
産業廃棄物	1,739 1,608 88 24 80	Kg ℓ m ³ 台 本	32,690	kg	4,187	kg	5,010	kg	24	m ³
産業廃棄物(OA機器類)	2 18	台 m ³	—		3,010	kg	89	台	—	
産業廃棄物(実験機器・実験台等)	—		—		—		2	台	—	
放置自転車の処分量	—		—		460	kg	—		10	m ³
その他	—		—		(紙類) 1,480	Kg	(ML楽器類) 138	台	—	

4 リサイクル量

札幌校			函館校			旭川校			釧路校			岩見沢校		
品目	数量	単位	品目	数量	単位	品目	数量	単位	品目	数量	単位	品目	数量	単位
古新聞	3,585	kg	古新聞	665	kg	資源ゴミ	170	m ³	古新聞	700	Kg	紙類	832	kg
ダンボール	2,390	kg	ダンボール	320 4	Kg m ³	金属くず	1,210	Kg	資源ゴミ	13,882	Kg	金属くず	19	m ³
古雑誌	14,615	kg	古雑誌	1,990	Kg	家電(テレビ)	24	台	古雑誌	7,440	Kg	ノートパソコン	1	台
シュレッダー紙	4,460	kg	びん・缶・ペットボトル	135	m ³	家電(冷蔵庫)	7	台	鉄くず	970	Kg	業務用フリーザー	1	台
びん・缶・ペットボトル	12,803	kg	家電(テレビ)	4	台			アルミくず	240	kg	家電(テレビ)	62	台	
資源化ゴミ	25,097	kg	家電(冷蔵庫)	5	台			家電(テレビ)	9	台	家電(冷蔵庫)	4	台	
			鉄くず	29,360	Kg			家電(冷蔵庫)	5	台	ペットボトル	6	4 t 車	
			アルミくず	2,320	Kg						OA機器類	1,690	kg	
			銅線くず	120	Kg									
			電源トランス	340	Kg									

5 環境保全コスト

分類	内容	コスト額
(1) 事業エリア内コスト		円
(1) - 1 公害防止コスト	大気汚染防止・水質汚濁防止・その他公害防止のためのコスト等	4,016,764
(1) - 2 地球環境保全コスト	地球温暖化防止・省エネルギーのためのコスト等	13,159,059
(1) - 3 資源循環コスト	資源の効率的利用・廃棄物のリサイクル、処理、処分のためのコスト等	13,163,546
(2) 管理活動コスト	環境情報開示・緑化、美化、景観保持の環境改善対策のためのコスト等	11,383,634
(3) 研究開発コスト	環境保全に資する・環境負荷の抑制のための研究開発コスト等	118,774
(4) 社会活動コスト	事業(所)に直接的に関係のない社会活動におけるコスト等	0
(5) 環境損傷対応コスト	自然修復・環境保全に関する損害賠償のためのコスト等	148,000

1 平成24年度の学部における主な環境関連科目の開設状況

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
札幌校	環境教育論	今 尚之	環境教育は、人間の全体にかかわる環境や環境問題とその解決について、人々の興味や関心を高め、知識、態度、技術を習得することを目的とするものです。この授業では、主体的に地域の環境問題、地球規模の環境問題に気づき、理解し、その解決のために行動するための学びとして環境教育をとらえ、その理念や手法などについて理解することを目指します。
	生活化学物質と環境	森田 みゆき	生活に関わる化学物質の利用と環境という側面から解説する。また、受講生自らがテーマを設定し身の回りの化学物質の現状を調査分析し発表を行うことで、資料をもとにより深く分析し、プレゼンテーション能力の育成を行う。
	古環境論	鈴木 明彦	地球は46億年の歴史をもつ水惑星である。その進化の過程で生命が誕生し、後に人類が出現した。このような地球史を理解した上で、現在と未来の地球を考えることが我々にとって重要な課題となっている。 1年次に取得した各種概論（地学概論、生物概論等）の知識を基礎にして、生物の進化史や地球表層部の環境変遷を講義する。
	環境マネジメント	大矢 智	地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題の解決には、市民一人一人の日常的な省資源・省エネルギーへの取り組みが不可欠である。しかし、このような活動を、学校や社会の中で組織的あるいは系統的に実践していくこと、つまり環境マネジメントを行うには、基礎的な知識と実践経験が必要である。この講義では、受講者に、将来小・中学校の教員となった際、学校での環境マネジメントに寄与できるような知識を教授し、その知識をもとに環境の見直し、その改善を実行できるような資質を育むことを目的とする。
	化学と地球の環境	菅 正彦	地球環境の化学についての基礎的な講義を行なう。
	環境教育教材開発	坂田 義成	地球環境がどのようにして形成されてきたかを地球の誕生、生命の発生、進化、人類の出現とそれが環境に及ぼしてきた影響等に関わって学ぶ。さらに、現在の地球環境の現状を知るとともに、その問題点、地球の生態系に与える影響、人類の将来に関わる影響について認識を深める。また、それを学校教育の中で、次代を担う子供達に正しく伝え、地球や人類の明るい未来を切り開く力を育成するために、どのような授業を構築するべきかを考えさせる。
	環境科学実験Ⅰ	並川 寛司 渡部 英昭 木村 賢一 高久 元	森林、河川など様々な環境における動植物の野外調査を中心に、調査方法、同定の方法、データ処理などの技術の習得を目指すとともに、環境と生物の関わりを学ぶ。
	人間生活・環境論特論Ⅰ	古村 えり子	自然環境の観察を通して人間の生活環境としての生活圏を取り巻く自然環境の重要性を学習する。
	環境教育基礎論	野村 忠央 相馬 一彦	我々は、当たり前のように呼吸し、飲食、排泄を繰り返しているが、それらを支えているすべてのものが環境であるということをつい忘れがちになる。生の根源を見つめ直すことが、環境問題を考える礎であり、そこを見逃しては、着実な環境教育は実行されない。富良野自然塾の環境教育プログラムを通し、環境を実感することで、将来、教師として環境教育に携わる際の基礎的な視点の獲得を目指す。
	環境地誌学	武田 泉	地域の環境問題や環境政策を、地理学・地誌学的観点から実地に把握することを目的とする。このため、講義と共に一部は現地にて体得したり、環境に関する自らの興味関心分野についての発表・報告も行う。地域の環境の理解に必要な地域理解のリアリティのため、地域で生じる時事問題を適宜扱う。授業形態は講義を基軸とする（一部数回は、巡検・観察等）。 地域の環境問題や環境政策について、地域地理学的見地から取り上げていく。具体的には、あいの里近郊の石狩浜の自然環境と海浜の自然破壊、石狩川や市民風力発電施設、バイオマス発電、札幌等での環境関連行事の参観による、企業やNPOの環境対策・CRSの把握、等が考えられる。 一部は、バス巡検等を数回現地で行うことを見込む。なお今回は事前事後の補足も行う。新エネルギー関連では震災後の電力需給等の話題、自然保護、リサイクル関連も折に触れて取り扱う見込み。

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
函館校	環境法・政策学	浅木 洋祐	地球温暖化や、生物多様性の破壊、砂漠化など、多様化・深刻化する環境問題に対して、環境税、排出権取引、直接規制など、さまざまな環境政策が検討・実施されている。本講義では、環境法制度の歴史的展開と、環境政策の経済理論と実際のケーススタディについての講義を行う。
	都市環境・都市景観	川本 清美	都市生活をとりまく環境に対して、問題発生メカニズムとその管理について学ぶ。都市環境について、廃棄物、大気、水分野の典型的な事象の解説を行うとともに、その管理事例をとりあげる。技術的、政策的などさまざまな角度から、都市環境管理の現代的な意義や課題について検討する。 講義内容は、環境システム工学の視点から構成される。
	環境分子生物学	長谷 昭	生物は様々な環境シグナルを適切に処理しながら、生物的及び非生物的環境ストレスに適応しながら成長し、繁殖している。本授業科目では、後期の「環境生理学」との関連において、生命の基本単位である細胞とその構造と機能を支える生体高分子物質のレベルでの、環境シグナルへの応答機構を理解することを目的とする。特にここでは、最も基礎となる生体膜の構造と機能、遺伝情報の発現と調節、及び細胞内情報伝達機構を中心に論じる。
	環境と人間社会	松木 貴司 鶴岡 光子 村上 貴弘	本授業科目は、環境科学専攻の全教員が一講ずつ担当し、それぞれの専門分野を基礎として、人間社会に関わる様々な環境問題についてオムニバス的に講義する。この講義を通して学生は、身近な人間社会に存在する様々な環境問題について知ることが出来ることともに、後期の分野配属に向けて、それぞれの分野に関わる環境に関する課題を知ることが出来る。
	世界の環境問題	田中 邦明	本授業は、環境問題の発生原因とメカニズムを考察し、人類がその解決に向けてどのように行動すべきかを論じるものである。
	環境保健学特論	山本 道隆	複雑化されていく社会における環境問題や健康問題の基本的考え方を身につけるため、身近な事例を通して考察していく。 また日常生活における環境問題や健康問題の基本的対処の仕方について学ぶ。
	環境教育	田中 邦明	人類社会の持続的な発展に求められる環境問題の解決と予防に必要な知識、技能、態度を身につける環境教育のための、理論、実践、研究方法および研究課題について学ぶ。
	環境緑化論	川本 清美	人間にとって快適な生活環境を整備するために必要な環境緑化に関する制度、事業手法、技術について学ぶ。
	環境生理学	長谷 昭	生物は様々な環境シグナルを適切に処理しながら、生物的及び非生物的環境ストレスに適応しながら成長し、繁殖している。本授業科目では、前期の「環境分子生物学」で学んだ環境シグナルへの応答機構の最も基礎となる遺伝情報の発現及び細胞内情報伝達に関する知識を土台として、生物の組織・器官及び個体レベルでの環境ストレスへの応答とそれへの適応機構を学ぶ。また、この授業を通して、環境問題に関心を持ち、自らの力で課題を設定し探求する意欲を高める。
	環境科学入門	田中 邦明 松浦 俊彦	地球規模で発生しつつある環境問題を解決・予防するための学問として成立してきた環境科学の目的と諸分野、環境問題の発生と持続のメカニズム、環境問題の解決戦略について論ずる。
旭川校	環境地球科学	地徳 力	古生物学・層位学の基本を整理したのち、地球環境の変遷について学習する。
	環境地理学	水見山 幸夫	地理学は環境の問題に長い間関わっており、地球環境問題に対しても幅広く取り組んでいる。講義ではレスター・ブラウンのプランB4、0をテキストとして用い、主要な地球環境の問題を取り上げ、環境地理学の視点から考える。
	現代と社会	角 一典 海老名 尚 千葉 胤久	本講義は環境をキーワードとして、以下の3つの観点から検討を試みるものである。 1) 地球環境問題・原子力エネルギー・食糧問題の3点について、その概要を把握し、先進国に生きるわれわれに何ができるのかを考える。（角） 2) 環境倫理思想の系譜を概観し、現代の代表的な環境思想・立場に関する理解を深め、環境（自然）と人間との関係のあり方について考察していきたい。（千葉） 3) 環境という切り込み口で、日本の歴史を繙くと、どのようなことが見えてくるか。また、そこから現代社会に生きるわれわれは、何を学ぶべきか、考えてみたい。（海老名）

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
釧路校	環境教育特論	大森 享	学校環境教育実践についてその原理を学ぶ。子ども観、指導観、環境教育実践創造の視点、教育手法、小学校環境教育実践をめぐる動向など、実践するに当たっての原理的考えや教育手法について論じる。院生はあらかじめ指定された文献を読みレポート報告を行う。
	地域社会と環境	平岡 俊一	本講義では、地域社会における環境問題・保全活動を社会的に分析・考察する考え方について学んだ上で、それに環境経済学や地域社会学、都市計画などの視点も加えて、実際に地域社会における環境保全に関する取り組みの担い手、体制、具体策などについて考えることを目的とします。講義全体を通して、環境保全を通じた地域社会の変革・発展の可能性についても考えていきます。 基本的には、資料をもとにした講義形式で進めますが、講義中に数回のフィールド調査と受講生各自による研究発表も予定しています。定期的に、講義の後半で、その回に取り上げた内容に関して地域社会で実際に起こっている問題・課題をテーマとして、その問題構造や解決法について考えるグループディスカッションや小レポートの執筆などを行います。
	環境教育活動ⅢD	平岡 俊一	本講義は、住民、NPO、学校、企業、行政など、地域社会の多様な主体・組織が参加・協働しながら展開する環境保全活動・政策の推進のあり方をテーマに学習・調査を行います。特に、それらを推進する上で重要になる、「担い手（人材）」、「組織体制」、具体的な取り組みの「仕組み」、になどに注目し、具体的な事例を対象にしたフィールドワーク等の社会調査を実践します。 具体的には、まず、地域社会での環境活動・政策、市民参加・パートナーシップ、環境運動などの基礎的知見ならびにフィールドワーク等の社会調査の手法について学習します。次に、各自で調査研究テーマを設定し、大学周辺地域で環境保全活動を実施しているNPO、地域組織、行政などを対象に調査を実施します。最後に、調査結果をとりまとめ、それをもとに実施主体に対する取り組み提案を作成し、発表・議論を行います。
	子どもと環境教育	大森 享	小学校環境教育実践について、その原理を学ぶ講義である。子ども観、指導観、環境教育実践創造の視点、教育手法、小学校環境教育実践をめぐる動向など、実践するにあたっての原理的考えや教育手法について論じる。小学校環境教育実践事例紹介、ビデオ視聴なども行う。
	環境教育活動ⅢC ⅣC	神田 房行	大学の構内や身近な自然、ピオトープなどでゴミ拾いや植樹などを行い、身近な自然の再生などについて考える。釧路湿原や武佐の森、大森毛海岸など地域の自然とじかに触れ合い、原生的な自然とはどのようなものであるかを体感する。 体感した自然などを切り口として調べ学習を行う。 調べたことを基にプレゼンテーションのための資料作りを行う。 プレゼンテーション用の資料を作成する。 他の受講生や市民などの参加者にプレゼンテーションを行う。 発表された内容について質疑、討論を行う。
	環境教育	大森 享	小学校環境教育実践を中心に、子どもの環境教育をめぐる理論的実践的諸問題について講義する。 子ども観・指導観・環境教育実践創造の視点・教育手法・小学校環境教育実践をめぐる動向など、子どもの環境教育を実践するにあたって、その原理的考え方や教育手法について論じる。 小学校環境教育実践事例紹介、ビデオ視聴も行う。 持続可能性に向けた教育、公害教育、自然保護教育についても講義する。 釧路湿原自然再生をめぐる市民・行政の動向も紹介する。 釧路市動物園の環境教育について紹介し、学校と動物園の連携による環境教育について講義する。 以上を通して、受講生が子どもの環境教育をめぐる理論的実践的諸問題の本質を理解し、小学校環境教育実践の構想力を身につけられるよう促す。
	地域社会と環境演習Ⅰ	平岡 俊一	地域社会における環境保全活動・政策について考える上では、環境問題、地域づくりに関する取り組みの歴史や現状について把握しておくことが重要になります。そこで、本講義では、主に日本国内における、環境保全や地域づくりに関する市民・NPO等による運動や国・自治体等による政策などの歴史と現状について学びます。 3～4冊程度の関連文献・論文を題材にした報告ならびに討議を行うほか、受講生各自による具体的な事例をもとにした研究発表を実施する予定です。
	環境を読む	大森 享 生方 秀紀 神田 房行 平岡 俊一 野村 卓	「環境」について、これまでの経験や学習からおおまかなイメージは誰でも持っているであろう。しかし大学で「環境」にかかわるものごとを学習したり考察していくためには、「環境」とはどのようなものであるか、また、「環境」とはどのような意味・価値を持つものなのかについて再確認することが必要である。この授業は、さまざまな書物とおして色んな考えを知り、「環境」や「環境問題」にかかわるディスカッションを通じて、みずからの考えを作り上げていくことを目的としている。また、この演習は大学での4年間の学びへの入り口となるものである。文献、資料を批判的に読み解く力、読み取った事柄や自分の意見を具体的な根拠に基づいて他者に伝える力、自分と異なる意見に耳を傾け、討論を通して、自他の視野を広げることのできる力を身につけてほしい。このような観点から、この授業では、環境論、自然環境、環境問題、環境教育、環境保全などにかかわるもの、新書本程度のもを課題図書とし、全員が読んできて授業に参加し、みずからの意見や体験とからめながら討論を行う。講義を通して、環境についての基本的な知識、理解を深めるとともに、環境に対する関心を深め4年間を見通した学習活動のベースとなる視点、意識を形成することを期待する。

キャンパス	科目	担当教員	講義内容
釧路校	環境教育活動ⅢB	大森 享	受講生は卒論テーマと関わりながら、研究内容・方法を深めるための実習・演習を行う。植林活動、「コロカムの会」と虹別中学校自然保護活動、動物園環境教育活動、くしろ森の楽校活動、子どもの環境教育プログラム作成、中学校社会科環境教育授業参観及び検討等を通して、学校環境教育実践創造のための構想力・実践手法を受講生が各自の問題意識から共同的な学びの中で身につけていく。
	環境リテラシーA・B	生方 秀紀 大森 享	地域や世界規模の環境問題の解決に貢献できるような環境教育を進めていくためには、「環境とは何か」「環境問題とは」「環境問題の原因」についての知識を整理し、構造化し、さらに「環境と人間との関係」への深い考察を試みる事が不可欠である。このような試みを行い、意思決定に生かしていく知的能力のこと「環境リテラシー」と定義する。この講義を通して、学生が環境リテラシーを身につけ、それを自ら磨き上げていくための方法に慣れることが期待される。前半の8回の授業で、「持続可能な開発のための教育（ESD）と環境教育」「子どもと環境教育」「地域の生態系」「環境問題と人間活動」について教員が講義を行なう。後半の6回では、提示された環境問題や環境教育にかかわる課題群の中から小グループ（2、3人）の学生が選択した課題についての「ミニリサーチ」（調査活動と自らの意見形成のための調査データの分析検討を行なうこと）の成果を発表してもらい、全員でディスカッションを行い、個々の課題間の結びつきや、問題解決のあり方、環境教育の役割等についての意見を交換する。その際、毎回2名の教員が司会と指導および補足説明を行う。最終回には全体を通して総合討論を行い、教員がまとめを行なう。
	環境教育活動ⅡB	大森 享	本科目は、環境教育分野教員全員による共同担当講義である。前半の7回の授業で「ガイダンス」「子どもと環境授業」「自然、科学と環境授業」「生きもの、生態系と環境授業」「社会と環境授業」「栽培と環境授業」「ものづくりと環境授業」について教員が講義する。中盤3回は、ゼミ集中形式で地域環境を題材とした「環境体験活動」ものつまたは自然環境調査（長澤）、カヤック体験を環境教育にどう活かすか（大森）、湿原と産業の接点観察（生方+新庄）を行う。後半5回で、各学生が選択した題材に関する環境教育授業プランの模擬授業およびそれを受けての検討会を行う。模擬授業に際しては、毎回2名の教員が司会・指導・補足説明を行う。最終回はレポート作成を行う。
	アウトドアライフの環境学	能條 歩	地球規模で発生している環境問題について、自然科学的な視点から学ぶ。現代の環境に関する諸問題を科学的に理解する。 野外活動の際に環境問題を考えるための基礎的認識を身につける。
岩見沢校	アウトドアライフの社会学	前田 和司	アウトドア・アクティビティ、自然体験活動を通じて、自然と共生した生活を創造するためには、環境問題や人と自然の関係のあり方を理解し問いただすことが重要である。本講義では、環境社会学の理論と具体的な事例研究を紹介しながら、それらを理解するための方法を説明する。
	野外環境教育論	前田 和司 能條 歩 山田 亮 Jones Ted	日本において野外教育と環境教育は別々のものとして考えられる傾向がある。しかし、国際的な流れとして、これら二つを野外環境教育として統合していこうという動きが活発になってきた。それは、実際の自然環境の中で教育活動を通して、社会と自然の関係を見直し、それを良好なものにしていく必要性が共通認識となってきたからである。本講義では、こうした国際的傾向に沿いながら野外環境教育のあり方を探っていく。
	アウトドアライフ・セミナーⅠb	前田 和司	野外教育、環境教育、環境社会学の文献を講読することを通して、環境保全に貢献できる教育のあり方について議論する。
	アウトドアライフ・セミナーⅡb	前田 和司	野外教育、環境教育、自然体験活動が展開される地域社会の状況を把握・理解するためのフィールドワークの方法を学び、実際に調査を行なってエスノグラフを書けるようになる。
	自然を楽しく学ぶプログラムⅠ	能條 歩	プロジェクトWILD、Project Learning Tree、ネイチャーゲームなど、自然体験学習や環境教育に関するパッケージプログラムの体験学習を通して、自然を楽しく学ぶ方法論について学ぶ。
	自然誌の読み解き	能條 歩	北海道の自然の特質を概観するとともに、北海道に見られる動植物・地形・地質などの学習や見学（現地野外講義）を通して、環境の動的平衡、自然現象と自然災害、災害に対する心構え、などについても考える時間をもち、今の北海道の自然環境がどのようにしてできあがってきたのかを学ぶ。

環境教育活動の取り組み

2 平成24年度の附属学校における環境教育の実施状況

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属札幌小学校	心ぞくのもりをたんけんしよう	1	生活科	24	
	あさがおをそだてよう	1	生活科	28	
	ほくの あさがお	1	道徳	1	
	水の中の生き物を見つけよう	2	生活科	25	
	水ぞくかんをひらこう	2	生活科	12	
	やさいをそだてよう	2	生活科	27	
	こうえんのみはりばん	2	道徳	1	
	植物を育てよう	3	理科	9	
	植物の育ちと花	3	理科	2	
	ホテルのひっこし	3	道徳	1	
	あいの里緑道	3	総合	30	
	季節と生き物	4	理科	24	
	じいちゃんが教えてくれたこと	4	道徳	1	
	水はどこから	4	総合	30	
	小樽夏の学校での自然散策活動	5	総合	2	大学教員、学生と連携
	私たちを支える国土の環境	5	社会	16	
	私たちを支える自動車工業	5	社会	23	
	かしこい消費者	5	家庭科	5	
	一ふみ十年	5	道徳	1	
	食を極める	5	総合	25	
附属札幌中学校	生き物どうしのかわり	6	理科	9	
	生き物のすむ環境	6	理科	5	
	季節に合わせて快適に暮らそう	6	家庭科	12	
	愛華さんからのメッセージ	6	道徳	1	
	動物の睡眠と暮らし	1	国語	5	
	ガイアの知性	2	国語	6	
	環境保全と北海道のエネルギー	1	社会	3	
	環境保全と日本のエネルギー	2	社会	3	
	環境保全と世界のエネルギー	3	社会	3	研究協力者として
	水資源の保全について	3	社会	3	
	フラクタル日陰（投影図）	1	数学	1	
	地球温暖化と温室ガス（1次関数）	2	数学	1	
	身のまわりの物質（プラスチックと環境）	1	理科	1	
	光合成と呼吸（酸素と二酸化炭素の循環）	1	理科	1	
	運動とエネルギー（エネルギー資源と利用）	3	理科	4	
	自然と人間	3	理科	5	
	科学技術と人間	3	理科	2	
	創造都市札幌（鑑賞）	2	美術	1	
	技術の進歩と生活・地球環境との関わり	1	技術・家庭	1	
	エネルギー変換に関する技術	2	技術・家庭	1	
身近な消費生活と環境	1	技術・家庭	6		
衣生活・住生活と自立（環境に配慮した生活）	1	技術・家庭	5		
3R（Reduce, Reuse, Recycle）	3	英語	6	教育実習時題材	
「附属中に緑を増やそう」（学校宿泊学習）	1	特別活動	3		
環境保全をテーマにした調査	1	総合的な学習の時間	2	フィールドワークでインタビュー	
環境保全をテーマにした調査	2	総合的な学習の時間	2		
附属札幌小学校 ふじのめ学級	虫の世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員による指導
	川の世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員による指導
	植物の世界	3~6	総合的な学習の時間	4	大学教員による指導
	実りの世界	3~6	総合的な学習の時間	4	
	畑の活動（食べたい野菜を育てよう）	3~6	総合的な学習の時間	3.5	
	畑の活動（野菜を育てよう）	1~2	生活単元学習	3.5	
	春をみつけよう	1~6	生活科	6	
	のりもてGO（校内宿泊学習）	1~6	特別活動	6	

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携
附属札幌中学校 ふじのめ学級	農耕作業	1~3	作業学習	35	
	現場実習	3	作業学習	35	
	社会見学	1~3	生活単元学習	6	
附属函館小学校	お花をそだてよう	1	生活科	9	
	秋とともにだち	1	生活科	8	
	やさいをそだてよう	2	生活科	8	
	ホウセンカをそだてよう	3	理科	10	
	こんちゅうをそだてよう	3	理科	8	
	季節と生き物	4	理科	3	
	葉がしげるころ	4	理科	4	
	葉が色づくころ	4	理科	4	
	発芽と成長	5	理科	8	
	花から実へ	5	理科	4	
	ものの燃え方と空気（大気）	6	理科	11	
	水溶液の性質（水質）	6	理科	12	
	電気の利用（エネルギー）	6	理科	10	
	健康なくらしとまちづくり（ゴミ、水）	4	社会科	21	
	環境を守る人々	5	社会科	11	
季節に合わせて快適にくらそう	6	家庭科	8		
はだしの広場で楽しもう ・本の読みかせ	全				
はだしの広場で楽しもう ・青空給食	全				
附属函館中学校	生物育成に関する技術	1	技術	23	
	エネルギー変換に関する技術	2	技術	20	
	地球環境問題	3	社会	2	
	資源エネルギーのかたよる分布	2	社会	2	
	光と音	1	理科	1	
	身のまわりの物質とその性質	1	理科	4	
	物質と状態変化	1	理科	1	
	大地の変化	1	理科	1	
	電流	2	理科	4	
	動物の生活と種類	2	理科	1	
	化学変化と原子・分子	2	理科	4	
	天気とその変化	2	理科	2	
	生命の連続性	3	理科	5	
	運動エネルギー	3	理科	3	
	化学変化とイオン	3	理科	6	
地球と宇宙	3	理科	7		
科学技術と人間	3	理科	15		
附属特別支援学校	牛乳パックをリサイクルしてはがきを作ろう	中学部	作業学習	140	
	アルミ缶をリサイクルしよう	中学部	作業学習	140	
附属旭川小学校	お店ではたらく人々とわたしたちの暮らし	3	社会科	18	
	健康な暮らしとまちづくり	4	社会科	23	
	環境を守る人々	5	社会科	14	
	生き物をさがそう	3	理科	5	
	光とかがみ	3	理科	8	
	植物を育てよう	3	理科	8	
	虫を調べよう	3	理科	7	
	風やゴムで動かそう	3	理科	9	
	電気の通り道	3	理科	9	
	じしゃく	3	理科	13	
	春と生き物	4	理科	7	
	夏と生き物	4	理科	6	
	秋と生き物	4	理科	7	
	冬と生き物	4	理科	6	
	生き物の1年	4	理科	3	

附属学校	テーマ	学年	教科	時間数	大学との連携	
附属旭川小学校	流れる水のはたらき	5	理科	13		
	ふりこ	5	理科	11		
	電流が生み出す力	5	理科	13		
	空気と水と緑の地球	6	理科	2		
	ものの燃え方と空気	6	理科	11		
	植物の体のつくりとはたらき	6	理科	9		
	土地のつくりと変化	6	理科	12		
	生き物どうしのかかわり	6	理科	10		
	水溶液	6	理科	14		
附属旭川小学校	電気の利用	6	理科	12		
	生き物と環境	6	理科	6		
	はるとなかよし	1	生活科	7		
	なつとなかよし	1	生活科	9		
	あきとなかよし	1	生活科	10		
	ふゆとなかよし	1	生活科	14		
	大きく育てばくとわたしの〇〇〇	1	生活科	22		
	つくってあそぼう	1	生活科	15		
	みんなでそだてよう	2	生活科	19		
	夏を楽しもう	2	生活科	10		
	秋を楽しもう	2	生活科	16		
	冬を楽しもう	2	生活科	11		
	※図画工作科においては、作品を作る際の材料として廃品の利用や学習後の処理等について指導します。					
	昔の遊びで友だちふやそう	2	生活科	15		
	快適な住まい方にチャレンジⅠ	5	家庭科	2		
	快適な住まい方にチャレンジⅢ	5	家庭科	2		
	クッキングにチャレンジⅠ	5	家庭科	10		
	クッキングにチャレンジⅡ	5	家庭科	11		
	私と家族Ⅲ	6	家庭科	12		
	快適な住まい方にチャレンジⅣ	6	家庭科	8		
	クッキングにチャレンジⅢ	6	家庭科	12		
目指せ！！エコロジーマン	4	総合的な学習の時間	25			
附属旭川中学校	環境地図づくり	1	社会（地理）	6	大学からの依頼	
	ペットボトルとリングブル回収によるリサイクル運動	全	生徒会活動	随時		
	環境への負荷が小さい発電方法	3	理科	2		
	身近な環境の調整	3	理科	2		
	環境と人間の活動	3	理科	2		
	環境と保全	3	理科	1		
	科学技術の利用と自然環境の保全	3	理科	3		
	資源エネルギーと産業	2	社会（地理）	2		
	環境問題への取り組み	3	社会（公民）	1		
	地球規模の環境問題	3	社会（公民）	1		
	これからの資源・エネルギー	3	社会（公民）	1		
	環境や資源を考えた生活	3	技術・家庭科（家庭分野）	10		
	生活や産業の中で活用される技術の評価	1	技術・家庭科（技術分野）	2		
	目的や制約条件に応じたものづくり	1	技術・家庭科（技術分野）	16		
	エネルギー変換に関するディベート	2	技術・家庭科（技術分野）	5		
	目的に応じた生物育成	2	技術・家庭科（技術分野）	7		
	Protecting Nature	3	英語	13		
	健康と環境	2	保健体育	8		
	附属釧路小学校	阿寒湖畔における前田一歩園財団との環境教育プロジェクト	2～6	生活科・理科・社会科	24	
		花いっぱい運動（沿道花壇の土おこし作業）	2・3	総合	4	
附属釧路中学校	市民一斉清掃運動	全学年	勤労奉仕活動（学校行事）	1		

3 附属学校・園における特色ある環境教育活動・取組

■ キロロ森自然散策 附属札幌小学校

赤井川村の森を自然散策する活動です。大学生が児童小グループのリーダーとなり、森を紹介し、散策の途中では、前もって仕掛けてあったトラップにたくさんの虫がつかまっています。とてもたくさんの虫を見たり、その様子を観察することにより、多くの生物や植物が森を支えていることを実感していきましました。また、途中では学生が子どもたちに楽しいクイズを出題してくれるので、子どもたちは楽しみながら北海道の生き物について理解することができました。



■ 美緑（みりよく）化計画（継続） 附属函館小学校

(1) 背景

校舎の老朽化、校地内の豊かな自然の無機質化が感じられる現在の附属函館小学校を「緑豊かな環境にたすむ美しく気品のある学校」にリニューアルさせ、その中で6年間生活する子ども自身を、心が美しく気品にあふれたオーラが放たれている子どもとして成長させていきたいと考えている。

(2) ねらい

- ① 子どもの心を落ち着かせ、気持ち安らぐ空間等の環境を整備する。
- ② 子どもに生命の尊さ、自然環境の大切さ等の心情を育む。
- ③ 校舎内の環境を整え、美しさを自慢できる附属函館小学校を目指し、美しい環境を手をかけてつくり出すことの大切さや喜びを体験を通して実感させる。

(3) 内容

- ① 各教科等における道徳教育との関連を図った指導の充実
 - 理科・生活科などで、生命を尊重し、自然環境を大切にす態度や自然を愛する心情を育てる。
- ② 道徳の時間の指導の充実
 - 「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」について体験活動と関連させる等の指導の工夫を図る。
- ③ 教室や校舎、校庭等の物的な環境の整備に努める。

(4) 具体的な取組

- ① 学級の木（平成22年度植樹）～グリーンコーンの植樹～
 - 各学級一本の植樹をし、自分たちの学級の木に願いを込めたり、見守ったりしている。
- ② 裸足の広場（平成23年度完成）～芝生の中庭～
 - 休み時間に芝生を裸足で走り回ったり、本の読み聞かせや給食を食べたりするなど、子どもたちの憩いの場所となっている。
 - 玄関を入ると、目の前に広がるこの裸足の広場は、附属函館小学校のセントラルパークとして位置づいている。
- ③ 緑のピッチ（今後の計画）～グラウンドの人工芝化～
 - 体育の学習等での子どもたちのダイナミックなプレイ
 - 近隣の住宅への砂埃等の飛散防止
- ④ 安心感と心の温かさを生み出すことのできるような花壇の造成・整備
 - PTAの協力のもとに、季節毎の花が咲く環境作り



■ ペットボトルとリングブルの回収によるリサイクル運動（継続） 附属旭川中学校

- ペットボトルとリングブルの回収を呼びかけ収集した。そのうち、ペットボトルは回収業者に発送した。リングブルは平成25年度に発送予定である。
 - 平成24年度実績 ペットボトルキャップ 約23,000個
 - 上記2点の回収にあたっては、生徒会のボランティア委員会発行のボランティア通信での啓蒙、教室での呼びかけを行った。
- 実施期間：4月～3月



■ 阿寒湖畔における前田一歩園財団との環境教育プロジェクト（継続） 附属釧路小学校

「一人でも多くの方が自然の恵みを末永く享受できるように、北海道の自然環境の保全とその適正な利用をすること」を目的に設立された前田一歩園財団の協力を得ながら、阿寒湖畔をフィールドとした自然体験活動を行いました。

- 第2学年では、6年生まで行う学習のスタートとして、1人1本クロエソマツの苗を植樹します。苗の前には自分の名前と、「大きく育てほしい」というメッセージを書いた木札も立てます。数年後には、どのくらい大きく成長しているかを確かめにく機会も予定しています。また秋には、北海道キノコの会から講師を招き、自然散策をしたり、「児童が切った枝にドリルで穴を開け、ネジを回し入れてつくる『バードコール』の制作」を行ったりしました。
- 第3学年では、道東昆虫研究所から講師を招き、「昆虫を観察したり、生息している環境を調べたりする活動」を行いました。
- 第4学年では、「緑のダム」と呼ばれる森林のはたらきを理解するため、国設阿寒湖畔スキー場のあたりから阿寒湖に注ぎ込む「白湯川」という川の河口から上流に向かってのぼり、「水が地面から湧き出しているところ＝川のはじまり」を見付ける活動を行いました。
- 第5学年では、チップ川という清流で川の流れの速さを体感したり、上流と下流での様子の違いを比べたりしました。その後、前田一歩園林業の方の説明を受けながら、枝うち作業の体験もしました。せん定した枝は持ち帰り、図工の学習で個性豊かな作品を作りました。
- 第6学年では、理科の食物連鎖・生態系の学習と関連させ、NPO法人環境把握推進ネットワークに協力いただきながら、「産卵のために森林から水辺に集まってくるエソサンショウウオや周辺に生息するエソアカガエルなどの生き物の観察」を行いました。冬には、エソシカによる食害を防ぐための「樹木のネット巻き」体験を実施しています。24年度からは、前田一歩園の敷地内にあるエソシカの捕獲施設の見学も行っています。森の恵みとしていただくことが、「森を守ること」ひいては「動物・人間を守ること」につながるということを理解する学習の一環として2月に、本校で初めてエソシカ肉の給食を実施しました。



■ hue学生プロジェクト '12

学生の自主的かつ創造的な活動を支援することを目的とした「hue学生プロジェクト '12」を募集し、環境部門として3件のプロジェクトを実施しました。大学からプロジェクト1件当たり年間30万円を上限とした支援を行い、学生による環境保全活動を行いました。

○ 蝶の通道（函館校）

植物と昆虫の関係から生物多様性の重要性を考えるプロジェクトとして計画しました。

大学構内の緑化だけでなく、これまで学生実習で得ている昆虫相のデータと、植物を植えることで変化する昆虫相のデータを比べることで、生物の多様性について考える機会を作ることを目指しました。

蝶が寄ってくるように園芸植物ではなく、身近に生育しているような植物を植え、函館に生育する植物、その植物の周りに生存する昆虫の両方を知ることができるようにし、あわせて、大学敷地内は、地域住民の散歩コースにもなっているため、地域の方々にも花々を楽しんでいただけたらと考えました。



○ D I Y (Do it yourself) workshop2012（旭川校）

旭川校L棟1階の壁を白く塗装し直し、学生の校内衛生管理に対する意識向上や学内、学生間の交流を目的にこのプロジェクトを計画しました。

L棟1階の壁の汚れがいつも気になっていたこともあり、学内をきれいに保とうとする意識が、今の学生には欠けていると感じていたこともあり、これまでの先輩方が行ってきた、学内清掃ボランティアを引き続き実施していくことが大切と考えました。

単純な作業に思っていた壁塗りでしたが、予想以上に楽しく、白くきれいになっていく壁を確認するたびに達成感を味わうことが出来ました。

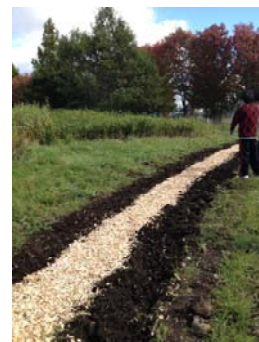
何よりも活動動機であった「美しく使い続ける意識の向上・再確認」について達成でき、終了時には「美しいということが、様々な意欲につながるのだ」と実感することが出来ました。



○ 身の回りの環境地図作品展 ワークショップ2012（旭川校）

意見交流を通して、来年度も「私たちの身のまわりの環境地図作品展」に参加し、より地図学習に興味を持ってもらえるようにすること、あわせて、日頃なじみのない様々な防災グッズに親しみ、防災の意識を高めてもらうことを目的にこのプロジェクトを計画しました。

防災グッズを使用したゲームを行いました。海外の子供たちも積極的にゲームに参加し、子供たちの防災に関する意識を高めることができました。また、来年度の環境地図展へ向けた子供たちの意欲の向上を図ることができました。



ペーパーレス会議システムの導入について

ペーパーレス会議システムの導入

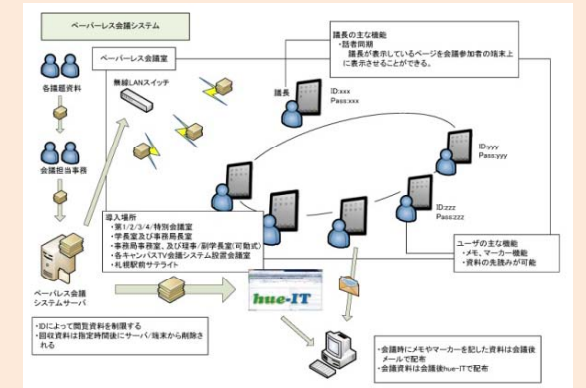
会議等にかかる資料の印刷経費及び用紙の削減を目的に、ペーパーレス会議システムを導入しました。

- **導入の背景**
 - ・全学の複写機（コピー）及び用紙の使用が増大している。
 - ・会議資料の印刷・製本・配付等に多大の労力を要している。
 - ・急を要する会議資料の印刷及び会議直前での資料の修正・差し替え等に苦慮している。

- **導入後期待される効果**
 - ・会議資料印刷にかかる複写機使用及び用紙の削減が図られる。
 - ・会議資料の印刷・製本・配付等の事前準備に係る労力が大幅に削減される。
 - ・会議直前での資料の修正・差し替えに迅速に対応できる。

- **導入時期**
 - ・平成25年6月
- **設置会議室等**
 - ・事務局第1・2・3・4・特別会議室、札幌駅前サテライト
 - ・学長室・理事室・副学長室・事務局事務室
 - ・各キャンパスTV会議システム設置会議室

- **システム構成**
 - ・タブレット型端末台数148台（事務局120台、各キャンパス（4箇所）×7台）



2013年 節電の取り組みについて

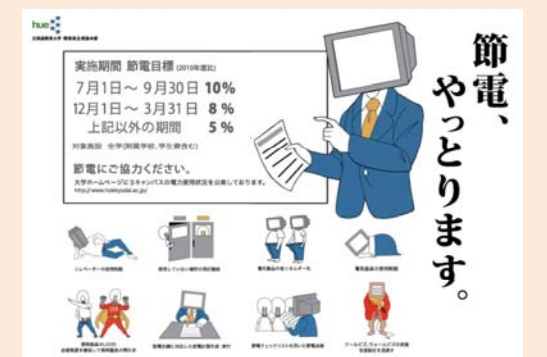
節電への取り組みについて

昨年度に引き続き、電力不足に対応するため、政府から昨年並みの節電を行うよう協力要請がありました。北海道教育大学では、大学の果たす社会的責任に鑑み、教育・研究等に支障のない範囲で、以下の節電対策を実施しています。

- 節電対象** 全学（附属学校、学生寄宿舎含む）
- 期間**
 - 夏季 平成25年7月1日（月）～平成25年9月30日（月）
 - 冬季 平成25年12月1日（日）～平成26年3月31日（月）
- 節電目標** 平成22年度同月の最大需要電力（kW）を基準
 - 夏季：10%以上、冬季：8%以上、その他の期間：5%以上

節電対策

- 意識改革**
 - 節電ポスターの掲示
 - 電力使用状況の公表
- 節電目標に対応した節電ロードマップの作成及び実行**
- 節電チェックリストを利用した節電点検の実施**
- 空調・暖房設備** 空調機の温度設定を見直す
 - クールビズ・ウォームビズを実施し、室温設定を見直す
- 照明設備** 必要照度を確保して照明器具の間引き
 - 可能な限りLED電球への交換
 - 使用していないエリアの消灯の徹底
 - 昼休みの室内消灯の徹底
- 空調、照明設備以外の設備** 暖房便座を節電モードに設定
 - 洗面所ハンドドライヤーの使用中止
 - パソコン（ディスプレイ含む）の省エネモードへの設定及び未使用時の電源オフ
 - エレベータの使用制限
 - 上1階、下2階の移動はエレベータの使用を原則禁止し、出来るだけ階段を利用



岩見沢校芸術課程美術コースメディアデザイン専攻学生（小北研究室）が節電ポスターを作成し、構内の各所に掲示しております。

地域貢献

本学には、様々な専門分野の教員がおり、その研究活動は多岐にわたり、各種審議会委員や講演会の講師、地域の環境活動等を積極的に行っています。これら教員の研究活動から、環境保全及び環境教育に関わる教員の地域貢献を次に示します。

1 各種審議会委員

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	並川 寛司	教授	自然環境保全基礎調査植生調査北海道ブロック会議構成員	環境省	24.10.18～25.3.29
			河川水辺の国勢調査〔ダム湖版〕アドバイザー	北海道開発局	24.6.5～25.3.31
	森田 みゆき	教授	北海道環境審議会委員	北海道	22.11.26～26.11.25
			札幌市環境審議会委員	札幌市	23.9.2～25.9.1
			札幌市環境教育基本方針推進委員会委員	札幌市教育委員会	23.6.28～25.9.1
	高橋 庸哉	教授	札幌らしい特色ある学校教育推進検討プロジェクト委員 (北国札幌らしさを学ぶ【雪】分科会)	札幌市教育委員会	24.6.1～25.3.31
今 尚之	准教授	札幌市環境プラザ事業検討部会委員	札幌市	24.7.13～26.3.31	
		奥沢水源地 保存・活用検討委員会委員	小樽市	24.7.24～25.3.31	
函館校	小栗 祐美	教授	函館市美しいまちづくり検討委員会	函館市	23.8.9～25.7.27
	根本 直樹	教授	都市景観審議会委員	函館市	23.6.29～25.6.26
	長谷 昭	教授	函館市環境審議会委員	函館市	23.12.1～25.11.30
			函館市緑化審議会委員	函館市	25.2.2～27.2.1
廣畑 圭介	講師	函館市福祉のまちづくり推進委員会委員	函館市	23.7.1～25.6.30	
旭川校	八重樫 良二	副学長 教授	旭川市景観審議会委員	旭川市	22.9.24～24.9.23 24.9.24～26.9.23
			旭川市景観アドバイザー	旭川市	22.9.24～24.9.23 24.10.30～26.10.29
	角 一典	准教授	旭川市ごみ減量等推進優良事業所認定審査会委員 (事業系ごみの減量とリサイクルを推進するため)	旭川市	24.11.13
	川邊 淳子	准教授	旭川市廃棄物減量等推進審議会委員 (旭川市の一般廃棄物の減量化を推進するための審議)	旭川市	23.4.6～25.4.5
	芝木 邦也	教授	旭川市を緑にする会・副会長 (育英事業等のボランティア活動による緑化の推進、緑の啓発活動)	旭川市	24.6.18～25.3.31
	西川 恒彦	教授	北海道希少野生動物植物保護対策検討委員会植物専門部会専門委員	北海道	22.7.12～24.3.31
			自然環境保全基礎調査植生調査北海道ブロック調査会議委員	環境省自然環境局 生物多様性センター	24.10.28～25.3.29
	氷見山 幸夫	教授	環境美化検討会議参加者	旭川市	23.7.15～25.3.31
			客員教授 (研究プロジェクトに参画し、地球環境学に関する総合的研究を行う)	総合地球環境学 研究所	24.4.1～25.3.31
	藤山 直之	准教授	旭川市環境審議会委員 (旭川市の環境の保全、創造に関する基本的事項を調査審議)	旭川市	22.11.20～24.11.19 24.12.27～26.12.26
道営農業農村整備事業等環境情報協議会委員			上川総合振興局	24.7.10～25.3.31	
旭川市常盤公園改修事業基本計画検討懇談委員会			旭川市	24.9.24～25.2.28	
釧路校	池田 保夫	教授	釧路市廃棄物減量等推進審議会委員	釧路市	23.11.1～25.10.31
			釧路市文化財保護審議会委員	釧路市教育委員会	23.12.1～25.11.30
	神田 房行	教授	釧路市文化財保護審議会委員	釧路市教育委員会	23.12.1～25.11.30
			釧路市環境審議会委員	釧路市	23.12.8～25.12.7
	佐々木 宰	教授	釧路市景観審議会委員	釧路市	23.8.29～25.8.28
	長澤 徹	教授	釧路市地球温暖化対策地域協議会委員	釧路市	23.11.28～25.11.27
釧路市環境審議会委員			釧路市	23.12.8～25.12.7	
平岡 俊一	講師	北海道環境審議会専門委員	北海道	24.5.30～24.11.25	
		再生可能エネルギー等導入推進基金事業評価委員会委員	北海道	24.8.22～26.8.21	
岩見沢校	能條 歩	教授	岩見沢市公害対策審議会委員	岩見沢市	23.10.1～25.9.30

2 講演会の講師

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
札幌校	高橋 庸哉	教授	平成24年度特別展「北海道の気象観測140年」関連講演	(一財)北海道開拓の村	24.8.18
旭川校	角 一典	准教授	家庭ごみ3Rセミナー 講師	旭川市	24.6.29
	関口 朋彦	准教授	スーパーサイエンスハイスクール事業「環境講座」講師	北海道旭川西高等学校	24.12.22
	和田 恵治	教授	スーパーサイエンスハイスクール事業「環境講座」講師	北海道旭川西高等学校	24.7.12
釧路校	平岡 俊一	講師	社員環境教育 講師	太平洋総合コンサルタント	24.7.21
岩見沢校	能條 歩	教授	自然体験活動推進協議会体験活動推進プロジェクト 講師	NPO法人 CONE	24.11.3

3 他大学の非常勤講師

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
旭川校	安藤 秀俊	教授	環境科学	旭川医科大学	24.4.7～24.9.30

4 地域の環境活動及び啓発活動

キャンパス名	教員名	職名	名称	委嘱機関	期間(任期)
釧路校	神田 房行	教授	春採湖調査会調査員	釧路市	24.6.1～26.3.31
			厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助審査会委員	厚岸町	24.4.18～25.3.31
	蛭田 真一	教授	春採湖調査会調査員	釧路市	24.6.1～25.3.31
			釧路川水系河川水辺の国勢調査アドバイザー	北海道開発局	24.5.1～25.3.31
伊庭 靖弘	講師	春採湖調査会 顧問	釧路市	24.6.1～25.3.31	
岩見沢校	前田 和司	教授	NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター 理事	NPO法人北海道 自然体験活動 サポートセンター	23.4.1～25.3.31
	能條 歩	教授	NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター 理事長	NPO法人北海道 自然体験活動 サポートセンター	23.4.1～25.3.31
			(社)日本ネイチャーゲーム協会指導者養成委員	(社)日本ネイ チャーゲーム協会	23.4.1～24.3.31
			ゆうばり自然体験塾 塾長(アドバイザー)	ゆうばり 自然体験塾	24.4.9～25.3.31
			ゆうばりネイチャーキッズクラブ運営委員会 キャンプディレクター	夕張市	24.7.1～24.8.1
	山本 理人	准教授	NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター 理事	NPO法人北海道 自然体験活動 サポートセンター	23.4.1～25.3.31
	山田 亮	講師	NPO法人北海道自然体験活動サポートセンター 理事	NPO法人北海道 自然体験活動 サポートセンター	23.4.1～25.3.31

環境省「環境報告書ガイドライン2012」との対照表

項目	掲載ページ
基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 対象組織の範囲・対象期間	巻頭
(2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異	巻頭
(3) 報告方針	8
(4) 公表媒体の方針等	29
2. 経営責任者の緒言	1
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	8
(2) KPIの時系列一覧	—
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	8
4. マテリアルバランス	10~13
「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標	
1. 環境配慮の取組方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の取組方針	8
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	9
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	8
(2) 環境リスクマネジメント体制	8
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	9,14
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	16~23
(2) 環境に関する社会貢献活動等	16~23
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	9
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	—
(4) 環境関連の新技术・研究開発	16~19
(5) 環境に配慮した輸送	—
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	6
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	15
「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	10~13
(2) 総物質投入量及びその低減対策	10~13
(3) 水資源投入量及びその低減対策	10~13
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	13
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	—
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	10~13
(3) 総排水量及びその低減対策	10~13
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	14,15
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	14,15
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	14,15
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	14
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	16~24
「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	—
(2) 社会における経済的側面の状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	26,27
その他の記載事項等	
1. 後発事象等	25
2. 環境情報の第三者審査等	—

ホームページによる情報公開

北海道教育大学では、環境報告書をホームページ上で参照できるようにしています。
 (下記アドレスから「情報公開」→「刊行物・広報誌」→「環境報告書」を選択してください。)
 2011年度報告書より、環境報告書の公表媒体は環境を配慮し、冊子による公表・配布は控え、ホームページのみの公表としました。

本学ホームページ: [URL://www.hokkyodai.ac.jp/](http://www.hokkyodai.ac.jp/)



職員で事務局前花壇の雑草取りを実施しました。
(2013.8.29)

国立大学法人 **北海道教育大学**

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

平成 25 年 9 月発行

編集・発行 北海道教育大学 財務部 財務課 / 施設課

〒002-8501 北海道札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1 番 3 号

TEL (011)778-0224/0242 FAX (011)778-0632/0633

E-mail z-sokatsu@j.hokkyodai.ac.jp(財務課), z-kikaku@j.hokkyodai.ac.jp(施設課)

Sep, 2013

Edited and published by finance Division

NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION HOKKAIDO UNIVERSITY of EDUCATION

1-3, Ainosato 5-3, Kita-ku, Sapporo 002-8501